

から開設された日本工学教育協会の教育士(工学・技術)の資格を取得していくことが、一つの鍵を握っていくことになると思われます。教育士(工学・技術)の育成は、社会と学校の双方にとって極めて有用な事業となるからです。

すでに、独自の方式による地域との連携によって大きな成果を上げている学校や、文部科学省や経済産業省の多様な提案公募型のプロジェクトを獲得して、現代GPや海外先進教育実践を含むCOOPや、環境教育、知財教育、IT教育、共同研究などで、地域と協力して多様な教育研究事業や人材育成事業を展開している学校が多くあります。

その現状を見るに付けても、今後のさらなる発展の鍵となるのが、テクノセンターを中心とする産学連携・地域連携の組織です。学校と企業の教育研究及び技術の現状とニーズを把握して両者をつなぐコーディネータの役割を担う教員の存在が不可欠であります。一定数の教員をここに配置することにより、この機能を格段に強化することが今後の高専の教育研究活動の新たな飛躍のために不可欠であります。



3 優秀な人材の確保と地域連携

また、地域との連携の強化は、高専の教職員・学生に関わる教育研究活動を充実させるだけでなく、これからの高専志願者・入学者の獲得のためにも欠かせません。現に、多数の高専では小中学校等への出前理科教室などの事業が展開されていますが、さらに高専と地域企業との連携の場である「技術振興会」等を活用しつつ、高専退職者や地域企業関係者等と共に、学校現場や学校以外で、小中学生とその保護者を含めて、幅広い層に対して理科と技術・技術学の楽しさと素晴らしさを知らせていく意義は大きいと言えます。

4 新たな教育の可能性と将来展望

この種の啓発活動が、小中学生の喜ぶ姿に接して、比較的年齢差が少ないチューター役の高専学生自身が使命感を自覚させられ、自らを向上させる推進力を獲得する、という大きな教育効果にも注目しておく必要があります。この種の効果を期待するには、大学生では遅すぎます。若齢から専門教育を受けたものだけが持つ新たな啓発の可能性なのであります。

このような地道な活動により、高専教育・理工系教育のおもしろさの普及、高専志願者の掘り起こし、さらには地域の技術伝承の良さを認識する素地の形成などが期待できます。将来の緩やかな安定成長の時代においては、地域社会の安全と安心を担う技術者へのニーズが増大することが見られます。この様な視点から、卒業生を地元に戻元して、人材面から地域を活性化していくという全国展開している高専の利点を発揮するための基盤が形成されます。その際、将来の女性技術者・研究者を増すことにも資する女子学生の獲得、及びその卒業後の進路のありかたと定着への支援について、地域と共に重点的に取り組むことが望まれます。

5 高専専攻科課程と地域連携

高専専攻科は、準学士課程で学修した個別の専門工学等の知識を融合複合化して使いこなし、社会のニーズに対して新しい技術を創意工夫できる知恵を持った技術者の育成を目指します。換言すれば、専攻科で学ぶ学生は、自ずと技術者として求められている複眼的な視野を持つこととなります。即ち、同年齢の大学生が工学部の学科で個別の工学の基盤を学んでいる時期に、専攻科では技術者が実際に遭遇する複合的課題を解決する能力を、企業等での共同教育(COOP)を含む徹底した技術者教育によって養成します。

単なる準学士課程のAdvanced Course ではない教育を目指す点が専攻科の新しい視点であり、大学の学部教育と明確に異なった特色であります。

その際、「知識は教えることが出来るが、知恵はこれを口で言い教えることは出来ない」と言われている知恵の「教育」(気付かせて引き出すこと、Educationの原義)を如何にして達成するか。これが難問であるところに課題があります。その方法、知識を知恵に転換するトレーニングの場として、地域社会、特に、企業等と協力して行う共同教育(COOP)を中心に据えた技術者教育、即ち、言葉による形式知、頭脳知だけではなく、体験重視型の「暗黙知」を生む教育に取り組もうとするものであります。この点において、専攻科課程の教育は、国立高専機構法第12条3項の規定「機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと」が必須のものとして機能しなければならないことが明らかであると言えます。

6 良き循環の形成を目指して

高専の教育システムは、昨年のOECD(経済協力開発機構)の高等教育調査団から「国際的に見ても非常にユニークですばらしい教育機関である」との高い評価を受けました。この様な高専体系を更にブラッシングアップして、その良さの進化に努めなければなりません。高専に魅力を感じて、良い教員が集まるのが極めて重要です。良い先生がいて良い学生が育ち、社会がそれを評価して更に優れた教員と学生が集まる。この良き循環を形成する契機をつくるのが、飛躍をめざす高専整備の目的であります。

高専の良さの認識を、地域を中心として定着させると共に、全国的な風を起こしたい。実績を伴った美しいPR活動が重要であります。